

一
関
楽
走
会

2014年
8月号
No.481
発行責任者
浅沼 善治
Tel24-3250
09048827059



一関の錚錚たるメンバー



開会式に勢ぞろい



一斉にスタート



心地よい浜風の中を颯爽と



選手会では最高齢の中山耕徳氏



走った後はこれにカギル



断崖絶壁を傍らに

走る仲間会岩手県交流会大船渡大会

7月6日(日) 三陸復興公園・碓石海岸

俄は込みの木遣い(全會)の音



フィナーレは全員で



頑張ったゾーと氣勢を上げる

木遣り 手古(てこ)
兄・・・ヨオオ～～～オツ ヤ-リオ～
弟・・・エ～～～ヨオオ～



記念に奇蹟の1本松の下でパチリ

130余名の参加で盛會に

7年振りの開催地となった大船渡大会は、梅雨の合間を思わせる快晴の下、130余名の参加で盛會裡に挙行政されました。三陸復興国立公園・ホテル碓石正面での式典セレモニー後の午前10時、碓石海岸遊歩道4.5Kのコースをスタート。登り下り、右折左折、石段有りの変化に富んだ道筋なれど、景勝地としての海岸、奇岩・断崖絶壁を傍らに望みながら、打ち寄せる潮騒と涼しい浜風の中を一気に走り抜きました。

入浴後の正午からの懇親会は、チーム毎に団体の演技が不可欠ですが、本年は阿部金吾さんの謡曲の予定が欠席との事で関係者の心配の種でした。しかし、遂に当日を迎え、既にバスは会場に向けて出発しておりました。そして瞬時の話し合いで上がったのが木遣りでした。本来であれば半年や一年は不可欠な練習を、僅かの30分程で「手古」「真鶴」を習得(のつもり)堂々と本番を迎えました。結果は頃の集中度の高さを証明するが如く、立派なものだったと全身で心酔した次第。



定評の九段の母

屁理屈は兎も角、感動の一時は地元出身の靖国に参りのお婆ちゃん役の踊りでした。従来より交流会定評の演技でしたが、何しろ役者さんは94歳の超高齢の爺ちゃんでした。と言う事は、この方は正に交流会、否全人類のシンボリック的存在であり、してみれば我々各自が目指す究極の人と言えるのではないのでしょうか。

矢張り交流会は素晴らしい。待たれる2年後の再会を。

菅原楯夫 記

- 参加者 水室一彦 浅沼善治 小嶋哲郎 小野寺富士子 葛西五郎 佐藤東 佐藤文政 菅原孝一
菅原楯夫 須藤正男 千葉丈夫 千葉利郎 畠山真佐美 平澤和則 松本守仁